

光を時を追い越して(レインボーロコモティブの歌)

1

D Dmai7 Em A7 D

長い時間の中で 気がつくこともなかった

Fm G A7 D

自分のできることが いっぱいわいてきた

D Dmai7 Em A7 D

こころの底にあった わだかまりもとけて

Fm G A7 D

翼 少し はばたく 勇気が湧いてきた

G D Em A7

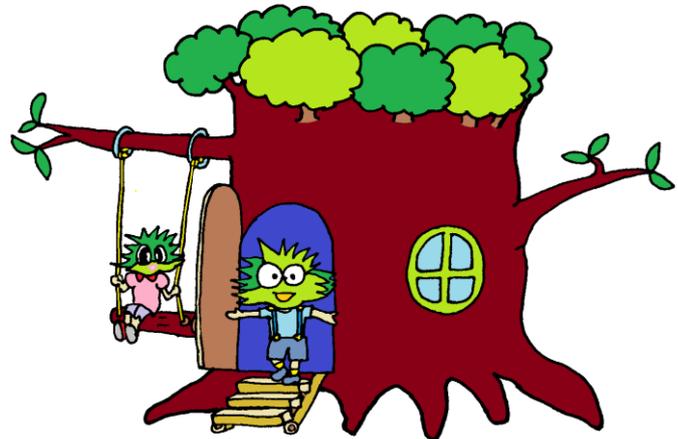
ほら この 流れに乗って

G D Em A7

走れ ボクの 七色の汽車が

D G A7 D

光を追い越し 走って行く



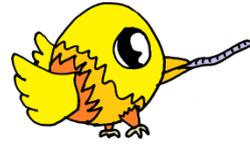
2

D Dmai7 Em A7 D

ひとつひとつのことを 成し遂げていくために

Fm G A7 D

光る汽車に友と 友情 わかちあい



D Dmai7 Em A7 D

子供のころにあった 夢を力に変えて

Fm G A7 D

汽笛 大きく鳴らして 時間を まっしぐら

G D Em A7 D

ほら その 希望に乗って

G D Em A7

走れ わたしの 七色の汽車が

D G A7 D

時を越えて 走って行く



3

D Dmai7 Em A7 D

いつかたどりつくだろ 自分が選んだところ

Fm G A7 D

みんなの力をかりて 蒸気をはきながら



D Dmai7 Em A7 D

そうしてひとつの夢が かなった大地に立って

Fm G A7 D

映画を見ているように 昔を振り返る



G D Em A7 D

ほら あの 思い出あふれ

G D Em A7

走れ ボクの 七色の汽車が

D G A7 D

今 来た道を 帰って行く



この物語のフレンズのような大岩少年

黒川順子

大岩伸之先生とは facebook で知り合いになりました。先生の”ボクたちは野菜語を話すよ”という冒頭の言葉に強く惹かれたからです。私は3年位前から、趣味で家庭菜園を始めていました（・・・と言っても週末菜園ですが）。それでも無農薬にこだわり、何とかいろんな野菜が収穫できるようになりました。

そうやって大切に育てた野菜を、今度は調理する喜び・・・抜き菜ひとつ捨てることができず、お料理作りを楽しんでいました。そんなときに大岩先生と出会いました。先生はエンジニアでもあり、ご自分で畑も作ってみえました。最初は野菜についてお話したいと思ったのが、きっかけだったんです。

「遊びにおいでよ」って気さくに誘っていただきましたが、弥富までは中々行けなくて実際にお会いすることは出来ませんでした。そして先生がご病気で日赤に入院されたことを facebook で知りました。たまたま娘が近くに住んでいましたので、思い切ってお見舞い

に伺ったのです。先生はご病気なのに、一生懸命執筆活動や音楽、今後の計画などを話してくださいました。

そのときは確か野菜語の本を書いてみえたことを記憶しています。一生懸命話されるその横顔やキラキラ光る眼を見て、「少年のような人だな」と思いました。本当に先生は純粹で、少年のような心を持った方です。だからこんな優しく、どこか懐かしい絵本を書くことが出来るのです。この絵本には彼の切なる願い「平和へのメッセージ」が託されています。

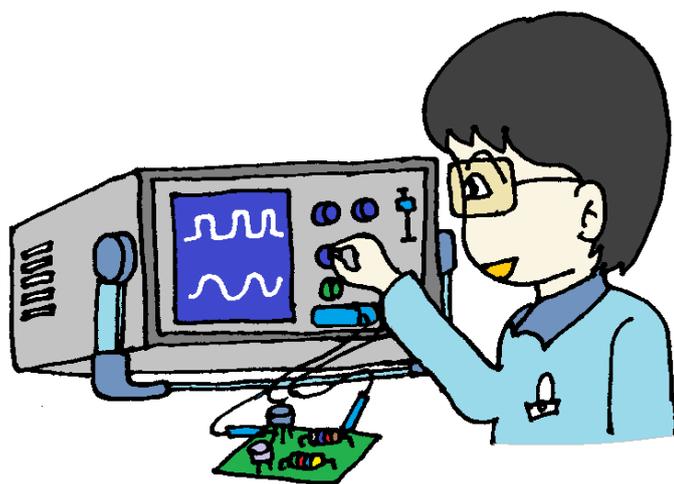
どんな国の人もこころが通じあえば、きっと仲良くなれる。戦い・争いは絶対にやめようというメッセージなのです。この絵本を読んで、子供たちの心に何かが残ることを願います。最後に私がお見舞いに来たことが、この絵本を書く始まりになったと言ってくださった大岩先生に心からの感謝の言葉を述べたいと思います。

ありがとうございました。

プロフィール

近代五種競技になってしまいました。皆が大学にいつている間、今でいうフリーターをしていました。同人誌でエッセイや漫画を描いたり、友人の音楽の興業を手伝いながら自分も曲作りをしていた時期でした。二十歳を過ぎ相変わらずのフリーターでお金もないため、自分でギターのエフェクターを作りはじめました。その結果覚えてしまったエレクトロニクスやマイコン回路を電子工学部の連中に大学ではまだ珍しいデジタル回路として教えていました。

その後24歳頃までこんな感じでした。ある時インベーダーゲームの基板チェックのアルバイトをきっかけに、プリント基板の回路設計を受けるようになりました。プリント基板の設計を3年ほど行い、電子回路設計の会社を有限会社アイエフラボと命名し設立しました。27歳の夏でした。エレクトロニクスの設計で生計をたてられるようになったわけです。



当時の仕事は中部電力総合技術研究所から温室制御システムの受注を受け、またこの後、ファミコンの発売2年前でしたが家庭用のゲーム機を世に出しました。会社の場所が愛知県豊田市だったため最終的にはトヨタ自動車や中部電力からの工場及び研究システムの設計が多く工場内の色々なシステムを設計しました。この頃から大きくソフトウェアの受注設計が伸びて行きます。

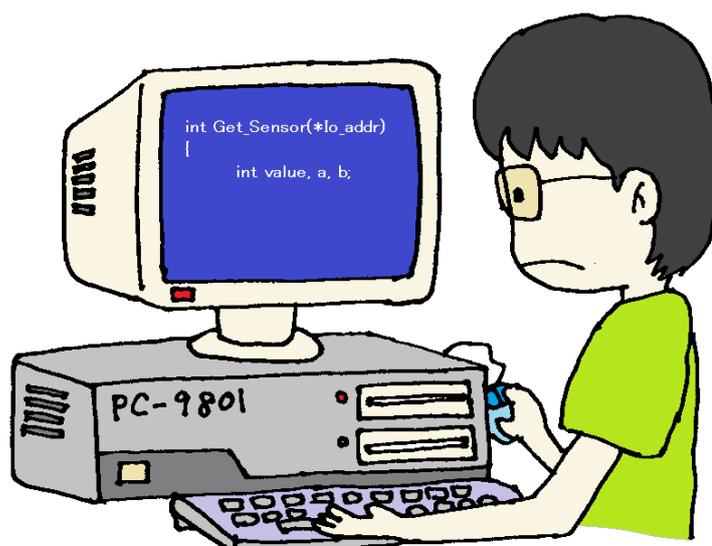
デジタル回路の黎明期だったためハードウェア雑誌に記事やエッセイを書いたのもこの頃からです。パソコンは当時はPC-9801というNECのパソコンが一世風靡していました。MSCというマイクロソフトのC言語でプログラミングしていた時期です。

順調に来ていた会社経営でしたが、平成3年に不動産バブルがはじけると、トヨタ自動車や中部電力等からの受注は全くなくなりました。ハードウェアの技術を生かして学研などからパソコンで勉強する理科実験教材などを出しましたが、パッとしません。

しかしほどなくしてインターネットの時代が来たため、東京にも進出し電子商取引の会社を設立しイーバンク銀行(現在の楽天銀行)の創立に参加しました。この頃よりインターネットシステムを多く設計するのですが、時期が早すぎたのか運用が伸びて行ったWebはほとんどなく、その10年後には豊田市に戻っていました。ハードウェアの設計ができるため、ITではインターネットと融合したユビキタスなシステムを自社ハードで実装しセキュリティや見守りシステムとして現在に至っています。

そんな中でこの本を初版発行する1年前の10月に腎臓病を患ってしまい、結果的に慢性腎不全になってしまいました。通算で40日以上にも渡る入院生活の中で、このファンタジーストーリーが生まれました。生きる力がマグマのよ

うに湧いてきて、音楽も合わせて作曲し、本として、ミュージカルとして皆さんも前に届けることができました。12年前までは技術書籍や雑誌のエッセイなども執筆して絵いましたが、ファンタジーストーリーは初めてでした。まずはその前編です。ゆっくりとお読みください。また後編のプロフィールでもお会いしましょう。



「フレンズ 第1部 フレンズワールドの危機」

第1話 前編

絵と文と歌

大岩 伸之



2013年1月5日 第1版 第1刷

印刷 株式会社伊藤美藝社製版所

発行 有限会社あんしん

発売 株式会社アイビーネット

TEL 052-991-2388 FAX 052-914-6064

